

## 衣服における色の共感覚効果の検証

○川端澄子\* 後藤紫穂子\*\* 福井典代\*\*\* 藤原康晴\*\*\*  
 (\* 梅花短大、 \*\* 県立土佐山田高、 \*\*\* 鳴門教育大)

目的 色は、色そのものによる感覚刺激のほかに、寒暖、重さ、距離、大きさなどの感覚にも影響する。色による本来の感覚以外の感覚に作用するこの現象は、共感覚効果として色彩学分野ではいくつかの実験によって明らかにされている。用いられているほとんどの衣服が着色されているので、衣服においても、これらの共感覚効果が存在するならば、その衣服を着ている人の体型評価に作用するため、衣服の分野でも無視できない現象である。本研究では、見かけの重量感、安定感を種々の色相、明度に着色した円形、ワンピース・ドレス、ツーピース・ドレスを用いて測定した。

方法 見かけの重量感を測定する実験は、5種の色相および明度の異なる5種のブルーに着色した円形とワンピースを用い、見かけの安定感を測定する実験は、明度の異なる5種のブルー、明度の異なった無彩色に着色した円形とツーピースを用いて行った。円形の場合は円全体を均一に着色したが、衣服はできるだけ実際に近い状態のものを提示したいため、グラデーションをつけて着色した。見かけの重量感は、認知する重さ感覚「重々しい／軽快な」にしたがって順位づけを行い、見かけの安定感は、認知する安定感覚「安定した／不安定な」にしたがって順位づけを行った。測定結果は順位グラフ表現法を用いて表した。

結果 「重々しい／軽快な」にしたがって順位づけした見かけの重量感は円形、衣服ともに明度の低いものが「重々しい」側から順に位置づけられた。したがって、重量感については円形とほぼ同じように衣服でも認知されることがわかった。安定感については、円形、衣服ともに明度の低いものほど、また、上衣よりも下衣の明度の低い組み合わせが「安定した」側に判定されたが順位づけの一致度はよくなかった。